

騰かかふる。依つて政府は食糧の生産増強と共に配給  
部面と一層整備の工場をして斯の如き應急的措置に出  
る必要を消滅せしむべきである。

### 第三 勞務

一〇、土地の合理的利用といふ面が農工調整に於て問  
題となつたのは長期建設的段階に於て工場の新設増設  
を規制することに關してであつた。然るに當局の苛烈  
化により問題の重點は既存工場の轉用否これと十二分  
に活用することによつて當局に應じなくてはならぬ  
段階である。之れ故農工調整の重要課題は土地の問題  
より寧ろ勞務の問題に移つて來た。

勞務については一般的に言へば我國の工業勞務者は  
明治以來その給源を多く農村に求められた。支那事變  
になつても昭和十四年第一回國民動員法頒布は之の大  
勢に變りはなかつた。然るにその後應召徵用等が加重  
せられたるに及び農業生産に影響を及ぼすは農村の勞務者  
を減らすことは出来難くなつた。最近に於て農業従事  
人口に變化はないが年齢構成に變化を生じ壯年男子が  
從來に比して著しく減少し、婦女子及び老人の勞力が  
我國農業勞働の缺くべからざる要素となるに至り、農  
村勞力をこれ以上減少せしむることは爲し得ぬとなつ  
た。従つて近頃の勞務動員は男子の使用制限、企業整  
備による轉廢業者、學生等に主たる給源を求め、又男